

## 次世代につながる少花粉の森整備事業

### 目的

「伐って・使って・植えて・育てる」という林業サイクルの循環のためには、本格的な利用期を迎えたスギ・ヒノキ人工林の伐採と、少花粉苗木による伐採跡地の再造林を促進する必要があるが、立木販売収入から再造林費用を賄える状況には至っておらず、森林所有者の費用負担が大きいことや林業の担い手不足などにより、林業適地であっても伐採・再造林が行われないケースが散見されます。

このため、伐採・再造林のコスト低減の取組を促進するとともに、着実に再造林が実施される仕組みづくりや、伐採等に伴う災害の未然防止の取組を支援することで、持続的な森林経営を推進します。

### 令和7年度事業概要

#### 1 事業内容

- (1) 伐採・再造林低コスト化支援事業 5,800千円
- ① ドローン資材運搬促進事業  
苗木や獣害対策用資材等をドローンにより運搬する事業者に対し、経費の一部を助成
  - ② GNSS（衛星測位システム）測量推進事業  
GNSS測量により測量業務の省力化を図るとともに、データを森林クラウド上に反映させて今後の森林整備促進に活用するため、GNSS測量により補助申請を行った事業者に対して経費の一部を助成
- (2) 伐採・再造林連携促進事業 220千円  
伐採後の再造林の確保と低コスト化の促進を図るため、伐採事業者と造林事業者をつなぐ仕組みづくり等を話し合う検討会を開催
- (3) 丈夫な森林作業道づくり推進事業  
作業道機能強化（※おかやま元気な森づくり推進事業に計上）



伐採・再造林の一貫作業

- 2 令和7年度 おかやま森づくり県民税充当額  
6,020千円